

講義 5 : ボノボとチンパンジーの性行動について

橋本千絵

ヒトに系統的に最も近い *Pan* 属に属するボノボとチンパンジーは、お互いに共通点を多くもつ。たとえば、社会構造をみても、複数のオスと複数のメスが一緒にいる複数雄複数雌の集団で暮らす。また、性成熟後メスが自分の生まれた集団を離れて違う集団に移籍し、オスの方は生まれた集団に一生留まる、という父系型の社会構造をもっている。さらに、集団の中で、臨機応変にメンバーが入れ替わる、パーティと呼ばれる小集団を作って離合集散する。

しかし、両者の社会関係には異なる点もある。たとえば、集団間関係をみると、チンパンジーでは、集団間関係は非常に敵対的である。時には集団間の殺戮がおこることもある。一方、ボノボでは、集団間関係は親和的である。集団間の出会いの際に争いが起こることが少なく、時には異なる集団のメンバー同士の交尾や毛づくろいも見られることもある。異なる集団が1週間近くも一緒に遊動することすらある。

また、オスとメスとの社会関係も両者で異なる。チンパンジーでは、オスはメスに対して絶対的に順位が高いが、ボノボでは、オスよりもメスの順位が高いこともあることが知られている。

こうした両者の社会関係の違いは、ボノボに特有な性行動に起因すると考えられる。

ボノボでは、オスとメスとの間の交尾以外にも、オス同士やメス同士の性行動が存在する。それらは、繁殖を目的とした交尾とは異なり、緊張を緩和するなどといった社会的関係の調節に使われる行動だ。ボノボは、彼ら独特の性行動を発達させて、性行動を使って社会関係を調節する。それが彼ら特有の社会構造を形作ることに関係していると考えられる。

また、オスとメスとの間の交尾でも、ボノボでは、実際には排卵が起きていない、つまり妊娠に結びつかない時期に発情する。こうした方向への進化もまた、メスの順位が高いといわれるボノボ特有の社会構造を生み出しているのかもしれない。

一方、性行動が多様なボノボに比べると、チンパンジーは一見地味に感じるかもしれないが、実は、交尾に関してチンパンジーはボノボよりも積極的だ。発情期に限ると、チンパンジーの方がボノボよりも高い頻度で交尾を行っている。

チンパンジーでは、1回の妊娠をするために非常に多くの回数の交尾をすることがわかっている。私が調査をしているウガンダ・カリンズ森林のチンパンジー集団では、1時間に約3回近くも交尾をする。1日のうちに50回以上交尾をしたメスもいた。これらの値を使って計算すると、1回妊娠するのに600回も交尾をしていることになる。

このような多数回の交尾はなんのために行われるのか。単に受精させるためにだけにしただけでは数が多すぎる。今回の講演では、多数回交尾に関する仮説をいくつか検討し、多数回交尾について考察したい。